

このとおり、学校評価について報告いたします。

さぬき市立神前小学校 校長 岩澤 徳 幸



	評価項目	評価 (4段階)	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	信頼される学校に関すること (開かれた学校、教職員の資質向上等)	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校だより」「学年だより」「保健だより」等で学校の取組や児童の様子を保護者に発信できている。それらの情報を掲載したホームページの更新を定期的に行い、保護者や地域から好評を得ている。 ○保護者評価では、「学校は保護者や地域住民が行事や授業等を参観する機会をよく設けている」と回答した保護者は 100%で、「授業参観や行事などは、子どもの態度や様子がよく分かり、楽しく参観でき、来てよかったと思うことが多い」と回答した保護者は 95%であった。 ○「学校は、保護者・地域住民の声や願いに応える教育を積極的に行っている」と回答した保護者は 96%であったが、「教職員は、一人一人の子どもをよく見て、個に応じた指導をしている」と回答した保護者が 86%で 2 学期より 4%下がった。保護者の学校に対する信頼感を回復するための方策が必要である。 ○現職教育においては、豊かな言語活動を通して、確かな学力を身に付け、進んで表現する児童の育成をめざして、今年度も、学習習慣の形成に重点をおき、家庭との連携と日々の授業実践を大切に教材研究に努めてきた。各教員が年間に必ず一度は研究授業を実施するようにし、指導力の向上を図っている。授業研究においては、KJ法を使った討議や外部指導者による適切な指導・助言を得ることにより教員一人一人の授業力・教師力の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者・児童・教員三者の学校評価項目の見直しを図り、クロス的な視点で考察し、課題の洗い出しとその対応策を考えて実践している点が素晴らしい。 ○2 回目の調査で、一部の項目で保護者からの評価が下がったことについて、各学年の保護者に学校での取組をもっと分かりやすく説明する努力が大切である。 ○保護者は積極的に行事に参加している。 ○ベテラン教員が多いので、教員に言いにくいことがあったり、教員への要望が高くなったりしていることも厳しい評価の要因になっている。 ○一人一人の児童を見取る目を育て、教員としての力量・授業力に磨きをかけてほしい。
2	確かな学力と主体的な学びを生む場の実現に関すること	4	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業では、家庭学習と授業をつなぐ取組を実践したり、表現内容を充実させた学習指導の工夫に力を注いだりした。板書とノート・ワークシートを連携させた指導を行い、教員がどの学習活動でどのように板書し、どのようにノートに書かせるのかを明確にするよう工夫改善を行った。 ○学習課題に対して、一人学び、ペア学習やグループ学習、全体交流を意図的に組み込んだ授業実践を図った。この基本パターンが定着してきた。さらに、継続研究していく必要がある。 ○家庭学習や自主学習の定着のため、各家庭に低・中・高学年毎の「家庭学習の手引き（改訂版）」を配布し、ワークショップ形式の学級懇談会等において、家庭での具体的な取組の情報交換を行った。その結果、アンケートでは「家庭学習や基本的な生活習慣などについて、学校と連携して定着を図っている」と回答した保護者は 92%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導案の中の板書・ノート（ワークシート）計画は、1 時間の授業の流れが一目で分かるとともに、教員自身にとっても、どの学習活動で、どのようなことを板書し、どのような支援をするのか等が分かるようになっている。本校独自の取組なので、今後も活用してほしい。 ○特に、低学年の板書は、ていねいな字で、文字の大きさにも配慮して書いてほしい。 ○教員の授業に対する真剣さを感じている。

3	少人数指導（少人数学級）に関する こと			
4	道徳教育の充実に関する こと	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「心のノート」を活用した道徳の授業実践が、課題である。友だち週間や運動会など様々な行事や体験活動と連携した実践を行うとともに、言葉遣いの適正化や規範意識の定着に向け、今後とも継続的に指導していきたい。 ○「道徳の日」は、道徳の時間に学習した道徳的価値を家庭で話し合ったり、考えたりする機会の日となるように活用し、道徳だよりを通じてその情報を学期に1回発信するよう改善した。 ○間違っただ行動を素直に認められない、みんなの物を大切に使用わない、間違っただ行動を注意しないなど道徳的実践力に欠ける事案があった。道徳の授業を核として、児童の心を耕し、道徳的実践力を育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業の充実（心の育成）とともに学級活動（実践力の育成）との関連を持たせた指導が大切である。自己肯定感を育ててほしい。 ○「道徳の日」等を活用して、学校だけでなく、保護者とも連携して粘り強く取り組んでほしい。 ○児童が自分事としてとらえ、相手の立場に立ってどんな気持ちか考えさせるような授業ができる力を付けてほしい。
5	時代の変化に対応した教育に関する こと	4	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも地域の施設や人材、目的に合った外部人材を活用し、本物にふれるなどより体験的で、交流を伴った学習が展開できている。（職場体験学習・雨滝自然科学館・非行防止教室・租税教室・香川用水出前教室・石田高校との田植え・稲刈り体験・幼稚園児との交流・自転車教室・読み聞かせ・野菜づくり等） ○外国語活動については、特別非常勤講師及び学校教育活動支援員による指導援助と電子黒板等の積極的な活用により聴覚及び視覚の両面に訴えることで大変有効な指導につながっている。 ○食育においては、各学年で栄養教諭による指導があり、児童にとって分かりやすく実生活に結びつくものになった。 ○創刊54号を迎える「いちょう文集」は、全校生が楽しかった1年間の思い出を作文にし、2年生以上が自分でパソコンを使って原稿を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○さぬき市で先行実施する外国語の教科化は、従来の聞く・話す活動だけでなく、書く活動が加わる。学級担任による指導が原則だが、指導（特に発音）が大変だと思う。教員の指導力が不安である。 ○外国語は、これから児童の身に付けさせたい大切な力なので、計画的に実践してほしい。 ○教科書をもとに、年間指導計画や指導方法を工夫（デジタル教材や音声CD等の活用）して対応してほしい。
6	学校図書館教育に関する こと	4	<ul style="list-style-type: none"> ○読書ファイルを活用し、「読書目標を達成」を明確にした。本をよく読んでいる児童とあまり読んでいない児童の二極化を防ぐため、スモールステップの読書目標を設定した。 ○読書ボランティアの方々（PTA他）による「読み聞かせ（朝の活動）」や図書館教育支援員による図書室の掲示等の環境整備が整うなど全般を通し充実し、児童の読書意欲を高めている。 ○図書の貸し出しは完全にバーコード化し、図書をパソコン管理するため作業が大変スムーズに行えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTAやボランティア、教員や児童による読み聞かせや親子読書の取組は、読書に対する意欲化につながるよい取組である。 ○読書が習慣化するように指導してほしい。（朝会等での発表） ○達成感を持たせるために、読書週間等の取組を充実してほしい。
7	自己指導能力を育てる生徒指導に関する こと	4	<ul style="list-style-type: none"> ○月1回、児童の情報交換会を実施し共通理解を図るとともに、心の教室相談員やスクールカウンセラーの助言も頂きながら、全教職員が連携して共通理解のもと児童の指導に当たっている。 ○定期的な「いじめアンケート」や毎月の「あのねカード」から情報を収集し、いじめの早期発見に徹した。 ○児童評価では、「きちんとしたあいさつをしている」が96%で、 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ対応がきめ細かくできており、教職員間の共通理解が図られており、今年度は不登校を出していない。 ○道で会った時は、子どもたちがよくあいさつをしてくれているの

			<p>2学期よりよくなってきているが、保護者、教員評価とのギャップがあった。大人の思いをうまく児童に伝え、児童の優しい気持ちを伝えられる言葉づかいをさせたい。</p> <p>○「家庭でのお手伝い」31%の児童ができていないと回答している。2学期より3%改善できているが、さらに家庭と連携した指導が必要である。</p>	<p>で、これからも続けてほしい。</p> <p>○保護者と連携して、正しいあいさつの仕方やことばづかい、お手伝い等に取り組みさせてほしい。</p> <p>○SC等の助力を受けることが大切である。</p>
8	人権教育に関すること	4	<p>○今年度も、友だち週間（校内人権週間）だけの取組に終わらないように、年度当初から年間を通じて、互いに認め合い人を思い合う心の育成を目指してきた。人権週間期間中は、学級人権宣言の発表や人権啓発標語作品、ありがとうの木の掲示をした。しかし、まだ相手を傷つける「チクチク言葉」を使う児童も多く、それがトラブルの主原因となっている場合があり、さらに継続的な指導が必要である。</p> <p>○ふれあい班（異学年縦割りグループ）による活動等の実施で助け合いの精神が培われている。児童評価の「誰とでも仲良くできている」では、95%があてはまると回答しており、運営の仕方の工夫や学級での指導の成果が表れている。</p> <p>○現職教育で辛立文化センターでの研修を行い、さぬき市内の人権問題についての理解を深めることができ、教職員の人権感覚が高められた。</p>	<p>○年間を通じた人権教育の取組として人権週間を位置付けているのがよいと思う。</p> <p>○縦割り班活動を計画的に実施できている。その効果が表れている。</p> <p>○人権学習をテーマにした学習参観を実施しているので、今後も継続して実施してほしい。</p> <p>○言葉づかいに関しては、家庭と協力して取り組んでほしい。</p> <p>○辛立文化センター研修等の現地研修を今後も活用してほしい。</p> <p>○不登校のいない学校はすばらしい。続けてほしい。</p>
9	健康・安全教育に関すること	4	<p>○保健学習、保健指導を各学年が計画に沿って実施できている。</p> <p>○学校保健委員会は、学習発表会の日に実施し、できるだけ多くの保護者に参加してもらえるよう日程を工夫した。今年度の内容は、「はじめましてSSWです」というテーマで、今年度から配置されたスクールソーシャルワーカーを講師として招き、SSWについての理解を図った。52名（PTA会員の73%）の参加があり、好評であった。</p> <p>○「学校内外の環境整備が行き届いており、子どもが快適で安全に学校生活を送れるようになっている。」と回答した保護者は、96%である。毎月1回実施している安全点検で以上があった箇所は迅速に修繕するよう配慮している。</p> <p>○1月に2・4・5年生でインフルエンザが流行したが、積極的な手洗い・うがい・換気の励行、各教室の加湿器完備により、インフルエンザの拡大を防止することができた。</p> <p>○学校での朝の体力づくりの活動は、季節に応じた運動を計画的に実施している。児童アンケート「つねに体力づくり、外遊びをしている」では82%（2学期とほぼ同じ）があてはまると回答した。家庭においても、季節に応じた運動が自主的にできるよう啓発する必要がある。</p> <p>○危機管理マニュアルの完備及び周知徹底を行うとともに、地震（エイクアウト）によるダム決壊時や津波を想定した避難訓練を実施し</p>	<p>○学校保健委員会が定期的開催され、SSW等の専門的な講話やスキルが実施されている点がすばらしい。保護者の出席率も大変すばらしい。さらに、深化させてほしい。</p> <p>○最近のインフルエンザ予防において「うがい」は指導項目から外されている。マスク着用の方が啓発されている。</p> <p>○加湿器は、管理を怠るとウィルスの増殖につながるがあるので、衛生管理をきちんとする必要がある。</p> <p>○今のところ、懸念されてきたインフルエンザは、適切な対応で流行を防ぐことができたのはすばらしい。</p> <p>○インフルエンザによる学級閉鎖のないように努力してほしい。</p>

			<p>た。また、火災・台風・不審者対応訓練及び児童引き渡しカードによる家族への引き渡し訓練（2回）を実施した。</p> <p>○緊急地震速報を利用した安全行動をとる訓練のために「神前小防災の日」を毎月1回実施した。いつ、どこにいる時に起きるか分からない大地震の際に「自分の命は、自分で守る」という意識を持って、自分の生命を守れる場所や行動を自分で判断する力が付いてきている。</p> <p>○健康良習慣の形成（手洗い・歯磨き・運動・早寝・早起き・朝ごはん）については、生活リズムチェック表を活用し、調査結果から課題のある児童や家庭との連携が必要な児童を洗い出し、繰り返し指導ができた。保健だより等を通じて、情報を伝え、保護者の啓発を行いたい。</p> <p>○学年団下校や集団登下校により、交通安全や不審者等への対策としている。二か月に1回、班長・副班長会を開催し、できるだけスムーズな班行動がとれるよう支援している。また、集団登校ができていない児童の指導も行っている。</p>	<p>○神前地区合同防災訓練にもPTAが協力し、地域ぐるみの防災訓練を実施しているのがすばらしい。今後も是非、継続して地域の防災意識を高めてほしい。</p> <p>○基本的な生活習慣を身に付けるためには、家庭との連携が不可欠である。生活リズムチェック表を活用して、いろいろな機会を通して保護者啓発を行ってほしい。</p> <p>○下校時の見守り隊等のボランティアがよくお世話をしてくれている。</p>
10	特別支援教育に関すること	4	<p>○特別支援教育コーディネーター（支援学級担当）を中心に、発達障害の理解と対応についての研修をさらに充実させるとともに、特別支援教育に対する校内の支援体制づくりを図ることができた。</p> <p>○来年度就学及び再来年度就学について早い段階から幼小の連携を図りながら、できるだけ小一ギャップを払拭するべく、状況把握やその対策等について取り組んできた。</p> <p>○発達障害のある児童の支援について、保護者の理解を得るため、本校配置されたSCやSSWと連携して専門機関との連携を密にし、的確な支援を行うことができた。今後もさらにねばり強く取り組みたい。</p>	<p>○特別支援学級の入級について、就学前の段階から幼稚園とも連携して、小学校での教育課程の説明や授業参観など行い、保護者の理解を得ることができているので、スムーズな入級ができています。</p> <p>○発達障害をもつ児童の指導について、今年度配置されたSSWやSCと連携した指導を行うことができ、その成果が出ている。</p>
11	その他（特色ある教育など）	4	<p>○一昨年度から「学習習慣形成」のため家庭との連携を図る取組を実践研究してきた。この実践の成果が香川県学習状況調査結果に表れている。この成果につながる有効な手立てをつかむことができた。来年度も、この実践を継続していきたい。</p> <p>○学校内外のボランティア活動を「さわやか活動」とし、自主的にさわやか活動に取り組む「さわやかキッズ」を結成し、今年度は、49名（全校生の49%）がさわやかキッズとして活動している。さわやかキッズをさわやか活動の呼び水として全校生で行うさわやか活動へと拡大していきたい。</p> <p>○今年度も、学校支援ボランティアコーディネーターの協力を得て、学校の樹木の剪定を実施することができた。学習支援や環境整備や様々な行事へ協力を来年度もお願いしたい。</p>	<p>○平成31年4月の石田小学校との統合に向けて、閉校実行委員会（閉校記念誌部会・閉校式典部会・閉校関連対策部会）や石田小児童との交流、教員の合同現職教育、PTA合同研修等を実施することができ、計画的に準備が進められている。スムーズなスタートがきれるようお願いしたい。</p> <p>○来年度も「学習習慣形成」のための家庭との連携を図る取組を継続してほしい。</p> <p>○児童のさわやか活動（ボランティア活動）を継続してほしい。</p>

